

第2次北九州市生物多様性戦略(2015年度-2024年度)(案)に対する市民意見一覧

資料1

【意見の内容】

- 1 戦略の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 戦略の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 戦略の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①戦略に掲載済、または戦略期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし

1 戦略全般に関する意見				
No	意見	市の考え方	意見の内容	意見の反映結果
1	戦略を読んだがわかりやすくよいと思う。特に本市の事例を多用していることはいいと思う。	ご意見ありがとうございます。今後の第2次戦略の施策の推進や広報においても、市民にわかりやすいと思っただけできるよう努めてまいります。加えて、本市の自然環境に関する現状を資料編2に記載することとしました。	1	②
2	全体的に、具体的でわかりやすく、実効性の高い生物多様性戦略だと思う。		1	②
3	取り組みには期待を持って見守りたい。実現までには難関があると思うが強いリーダーシップを持って完成させてほしい。		1	②
4	北九州市の今年度の生物多様性戦略に全面的に賛同いたします。		1	②
5	現在の生物多様性戦略で施策を推進してきて、その特徴的な成果は何であると考えているか。	現戦略の推進による成果は様々ありますが、代表的なものとしては「里地里山の持続的な利用～小倉南区発「日本のふるさと」推進プロジェクト」、「北九州市自然環境保全ネットワークの会(自然ネット)の取り組み」、「響灘ジオトープの開園と自然環境学習施設としての取り組み」の3つがあると考えています。第2次戦略では、これら3つの取り組みについて、第1部の「4 本市での生物多様性に関する取り組み」で詳細に記載することとしました。	4	①
6	第2次戦略の取り組みの中で「これが特に重要」という施策はあるか。	第2次戦略では生物多様性の4つの危機に対応した基本目標を設定しました。生物の多様性を保全するために求められることは多種多様であるため、「これが特に重要」と位置付けて推進するのではなく、基本目標の達成に向けて総合的に施策を推進していきます。	4	①
7	自然環境に関する取り組みの継続は重要である。しかし、その取り組みが市民には伝わっていないように感じる。広報が重要なのではないか。	ご意見をいただいたとおり、生物多様性の意義をより多くの方々にご理解いただき、その保全や活用の取り組みを広げてゆくことは大変重要なことと考えています。そのため、第2次戦略のポイントを解説した概要版を作成、配布するほか、わかりやすく周知する方法を工夫しながら広報に努めてまいります。	2	①
8	戦略の中身はよいと思う。問題はこの戦略をいかに市民に伝えていくかだと思う。戦略の取り組みを出前講演で紹介するなど地道に広げて行ってはどうか。		2	①
9	ていたん、ブラックていたんを活用して、戦略をわかりやすく説明してはどうか。		2	①
10	生物多様性戦略を広報することが重要で、やさしく、おもしろく伝えることが必要。そのために、PR大使を活用したり、あるあるシティなどのサブカルチャーを活用するなどの広報をしてもよいのではないか。		2	①
11	環境首都北九州らしいすばらしい内容である。そのため、市民一般への広報・浸透が大変重要かつ難しいところと考える。現戦略には概要版があるが、市民一般の理解協力のためにはA4用紙1枚程度で図や写真を使ったパンフレットのようなものが必要と考える。それらを使ってマスコミや小中高校、大学などを巻き込む形で展開するのが一つの方法ではないか。		2	①
12	戦略を策定したあとに、戦略に関する講演会を開催するなど、市民の方に何とか知ってもらえるような工夫をしてほしい。		2	①
13	生物多様性の重要性が市民に浸透することは重要だと思うが、「生物多様性戦略」という名前だけを見ると「難しいもの」と思ってしまう。戦略に親しみやすい愛称などをつけてはどうか。		2	①
14	戦略を広報するため、ていたん、ブラックていたんを使った〇×クイズをするなど、子どもにもわかりやすく説明するような取り組みをしてはどうか。		2	①

2 「第1部 生物多様性を巡る現状」に関する意見				
No	意見	市の考え方	内容	反映結果
15	生態系の多様性の記載で「様々な環境で生態系が形成」とあるが、様々な環境をもっと詳しく書いてほしい。	ご指摘いただいたご意見を踏まえて、記載を追加・修正することとしました。	3	②
16	生物多様性の基本はジオ(大地・地形・地質)の多様性であると認識している。戦略にはジオとの関係にはほとんど触れられていない。第4部でジオパーク推進協議会や登録に向けた取り組みが取り上げられているので、「第1部 本市の生物多様性」の項目でも触れてほしいと思う。	第1部は生物多様性の概要を本市の事例を交えてながらわかりやすく記載したもので、第4部で具体的な事例について詳細に掲載するようにしています。	3	③
17	第1の危機の記載で「動植物の捕獲」とあるが、植物には捕獲という言葉はなじまないのではないかと。	ご指摘いただいたご意見を踏まえて、記載を追加・修正することとしました。	3	②
18	第2の危機の記載で自然への働きかけへの減少の理由が過疎化や人々の都市型のライフスタイルへの変化とあるが、高齢化などの理由もあるのではないかと。	ご指摘いただいたご意見を踏まえて、記載を追加・修正することとしました。	3	②
19	第3の危機の記載で外国原産の生物が観賞用に持ち込まれ野外に放たれることで従来の生態系が失われることが取り上げられているが、同時に遺伝子の多様性をかく乱する例も書いたほうが良いと思う。	ご指摘いただいたご意見を踏まえて、記載を追加・修正することとしました。	3	②
20	第3の危機の記載で、特定外来生物が9種と記載されているが、アレチウリ、ボタンウキクサの目撃例があるのでそこにあげると良いのではないかと。	ご指摘いただいたご意見を踏まえて、記載を追加・修正することとしました。	3	②
21	メダカやホタルを例に生物多様性の教育、特に遺伝子の多様性の教育が推進できると考える。	ご意見ありがとうございます。生物多様性に関する教育や啓発を行う上で参考にさせていただきます。	2	④
22	自然ネットの会員だが、もっと自然環境サポーターを活用するようになると考える。団体等で個人の力が必要な場合は、自然環境サポーターに直接呼びかける方法を考えたらいかがか。	今後自然ネットにおいて、「団体間の交流の深化とその活性化」に積極的に取り組んでいくこととしており、その中で様々な方法について検討してまいります。	2	①
3 「第2部 本戦略の基本理念と基本目標」に関する意見				
23	基本目標1に関連して、植物(野菜)が育つには土の中の微生物や菌類が育つ環境が必要である。自然栽培に触れてもらうことで生物多様性を理解してもらい、また、自然栽培の野菜を食べてもらうことで生物多様性の重要性を市民に伝えることができると考える。	ご意見ありがとうございます。第2次戦略の基本目標の設定においては生物多様性の4つの危機を踏まえ、総合的に基本目標を設定することとしました。	2	④
24	基本目標2に関連して、自然栽培は土の中の微生物や菌類が死滅することなく、虫も植物も生かされ環境も維持される。こうした体験や実践を通して環境力の醸成が期待できると考える。		2	④
25	基本目標3に関連して、山・里・川・海は一つの自然でつながっており、イノシシやサルの問題など里とまちを切り離して考えることはよくない。人も生物多様性の中で生活しており、生物多様性の重要性や環境力の高まりによって、人から持ち込まれるものや排出されるものの意識が変わることが期待されると考える。		2	④
26	基本目標4に関連して、自然栽培は人の都合による栽培ではなく、生物多様性の中で育てる栽培である。この中に人の手を少し加えることによって、自然からの恵みを感じ、人も生かされていることに気付くものとする。また、永続的な環境保全にも役立つと考える。		2	④
27	基本目標5に関連して、自然栽培の結果も、一つの情報として役立つと考える。		2	④

4 「第3部 戦略を推進するための本市の施策」に関する意見

No	意見	市の考え方	内容	反映結果
28	基本目標1の「その他の市民啓発事業」でエコツアーやジオツアーなどを企画実施することが記載されているが、専門家のいる「いのちのたび博物館」の取り組みが戦略の中であまりでてこないのが不思議だ。	ご指摘いただいたご意見を踏まえて、記載を追加・修正することとしました。	2	②
29	幼児や子供に対して自然環境に関する教育を行うことは非常に重要である。そのためには、教える先生の能力向上が大切ではないか。	教員の環境教育研修については、毎年夏季休業期間中に教育センターで受講できる仕組みを作っています。環境未来都市としての北九州市の歴史や取組、生物多様性、循環型社会や低炭素社会づくりを視野に入れた総合的な環境教育のあり方を研修し、教員の指導力向上に努めています。	2	①
30	小学校の環境体験科を通じた教育がなされているのは非常に良い取り組みであると思う。授業で教える先生が自然に対して知識を持って教育に取り組むことが大切ではないか。		2	①
31	子供たちが自然に接することが絶対的に不足している。そのため学校教育の中に自然に触れる機会を増やすことが必要である。夏休みとくに体験教育を取り入れているようだが絶対的に不足している。もっと外に出て自然の中に溶け込むことや草花や虫たちに触れるチャンスを作っていただきたい。	子供たちが自然に接する機会は環境体験科を通じて接することができるほか、響灘ピオトープなどの自然環境施設や山田緑地などの公園施設などで自然とふれあうさまざまなイベントを開催するなど、子供たちが自然にふれる機会を提供しています。	2	①
32	北九州市には自然がまだ数多く残っている。これをなくさないようにしていただきたい。何らかの手を加えないとこの自然は直ぐに消滅してしまう。是非今の自然を維持してほしい。	本戦略の基本目標の1つで「自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮」を掲げて、本市の自然を適切に保全していくよう努めてまいります。	2	①
33	基本目標2の「ほたるのふるさとづくり」でホテルを通じた国際交流についても、言及するとよいのではないか。	ご指摘いただいたご意見を踏まえて、記載を追加・修正することとしました。	3	②
34	樹木の落ち葉による土からの栄養分供給、それらを含めた土壌の重要性、固められていない土があることの生物多様性からの視点による重要性、貝の浄化作用の重要性、また、以前は地域に沢山いたカエルやアカハライモリやカスミサンショウウオなどの両生類や多種の昆虫を地域に増やすことのできる環境作りについて、もっと踏み込んで頂きたい。	本戦略の基本目標の1つで「自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮」を掲げて施策を推進するとともに、ご指摘のありました生態系サービスの重要性を啓発してまいります。	2	①
35	基本目標3の「曽根干潟の保全と利用」で曽根干潟がその価値や重要性について国などから指定、価値付けされていることはきちんと記載したほうがよいと思う。	ご指摘いただいたご意見を踏まえて、記載を追加・修正することとしました。	3	②
36	基本目標3の「曽根干潟の保全と利用」で曽根干潟は鳥の採餌場所や休息地としての重要性が増している。また、カブトガニの主要産卵地も存在する。今後調査等を進めていくことで、その結果を踏まえながら保全に役立ててほしい。	曽根干潟の保全と利用に当たっては、調査及び情報の収集を行い、保全に役立てるよう努めます。	2	①
37	基本目標3の「特定種に対する保護・保全対策」のカブトガニ保護対策について、カブトガニは環境省RDBでは絶滅危惧Ⅰ類、福岡県RDB(2014版)では絶滅危惧ⅠAとなっているため、そのように記載してほしい。	ご指摘いただいたご意見を踏まえて、記載を追加・修正することとしました。	3	②
38	基本目標3の「特定種に対する保護・保全対策」のカブトガニ保護対策で「曽根干潟カブトガニ自慢館」運営協議会の取り組みや東朽網校区まちづくり協議会の取り組みなどにも触れてほしい。	市民、NPO等の活動事例の記載については、自然ネット参加団体のなかで了解をいただいた団体について記載することとしました。	3	③
39	特定外来生物のオオキンケイギクによって生態系が変わることが危惧される。しかし、オオキンケイギクが特定外来生物であるということを知らない人が多い。こうした教育が非常に重要ではないかと思う。		2	①
40	ブルーギルなどの特定外来生物の広がりを防ぐためには、東京の多摩川などでNPOが取り組んでいる「おさかなポスト」のような、飼いきれなくなった生き物を引き取るようなくみを考えてみてはどうか。		2	①
41	国の外来種被害防止行動計画を参考に小、中学校で外来生物についてのパンフレット等を配布し知識の普及をはかるようにすべき。	特定外来生物などの外来種は生態系に大きな影響を与えることなどが危惧されるため、ご指摘のとおり、周知啓発が非常に重要であると考えています。効果的な周知啓発方法について、検討してまいります。	2	①
42	市民参加型の外来生物の駆除作業やシンポジウムを定期的に行うべき。特に陸上植物のセイタカアワダチソウなど道路にも生え、人の目に必ず映っている種類を中心に駆除計画を進めると良い。		2	①
43	基本目標3の「外来種に対する市民啓発の実施」で現在は特定外来生物には指定されていないが「ミシシippアカミミガメ」について、大量放棄を防ぐためホームページなどを通じて啓発をして欲しい。		2	①
44	人工池などの閉鎖的環境でのコイの放流は人間の癒しには良いが、川などの開放的環境では生物多様性が崩れるため、コイ放流を止めてほしい。		2	①

45	基本目標4の「ビオトープなどの自然共生型地域づくり」の中で山田緑地の記載があるが、山田緑地は大都市の中の先進的な公園と評価も高い。また、開園20周年を迎え、これまで様々な取り組みが推進されてきた公園である。そのため、山田緑地については、開園までの取り組みや、20年間推進してきた取り組みなど、もっと記載を増やすべきである。	ご指摘いただいたご意見を踏まえて、記載を追加・修正することとしました。	3	②
46	河川等をコンクリート化すると過酷な環境でも耐えられるアメリカザリガニやウシガエルのような外来種しか棲めなくなるため、撥川河川整備事業のような整備や川を多自然型川づくりを推進して欲しい。	本市では、自然生態系に配慮した「多自然川づくり」を積極的に推進しています。今後も、生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観の保全・創出を目指した整備を進めていきます。	2	①
47	基本目標4の「人と野鳥が共存する環境づくり」では主に整備方針の内容が書かれているが、山田緑地や響灘ビオトープなど実際に供用されている施設もある。供用されている施設については、どのように整備され、現在どのように供用されているかを記載すべきである。	ご指摘いただいたご意見を踏まえて、記載を追加・修正することとしました。	3	②
48	森は乾燥を防ぎ、落ち葉にはいろんな微生物や昆虫や植物が育ち森林性の鳥類もやってくるため、生物多様性のためには森が必要であると考えます。しかし、響灘ビオトープには大きな森がない。鳥が運んだ自然発生的な樹木が育って森を形成するまでに10年、20年とかかりその間に益々荒廃するのではないかと懸念している。市内で自然に生育している樹木を植えて早く森を形成し、来園者がまた来たくような魅力的な自然を維持してほしい。	響灘ビオトープは人の手が加わらないことによって自然が回復し、絶滅危惧種など希少な動植物が500種類以上生息する場所であることから、園内の生態系に配慮した維持管理に努めていきます。	2	①
49	基本目標4の「自然環境アドバイザー制度による支援」で希少な動植物や豊かな自然環境が残る地域での公共事業の実施に対して、事業課からの申し出により自然環境アドバイザーによる支援を行う」としているが、申し出を必ずしもする必要がないということでしょうか。申し出をしなければ、制度が在っても有効に機能しないので、義務付けをしたほうがよいと思う。	公共事業の実施における環境配慮については、環境アセスメント制度や北九州市環境配慮指針に基づき適切な対策が行われております。公共事業の中でも、特に専門的な見地から助言や指導が必要な場合(希少種が発見された場合など)には、自然環境アドバイザーによる支援を行っているところです。今後も、必要に応じて自然環境アドバイザー制度による支援を行っていくことといたします。	2	①
50	「市民参加による自然環境調査」は非常に大切であるし、方向性としては正しいと考える。しかし北九州市の調査は場所と種を限定した傾向が強い。本来は市全域の自然環境があった上で、場所や種の限定になるかと思う。市全体を対象とした環境調査の在り方を検討をする必要があると考える。		2	①
51	北九州市の工業地帯の中に長年放置された荒地などが存在し、そこに希少な動植物が生育・生息している可能性があると同時に外来種が入ってくる玄関口である可能性がある。今後は事業者との連携を図り、平地における生物多様性の把握と保全に努める必要があると考える。工業地帯であっても生物多様性に配慮していることを示していけたらと思う。	ご意見をいただいたとおり、自然環境を保全する上で、生物の生息状況等を調査することは非常に重要であると考えています。今後は、調査地域や調査手法など、自然環境調査のあり方について検討を進めていくこととします。	2	①
52	私たちは動植物の生息調査を行っています。その中で、北九州市に生息している動植物のデータが少ないことを知りました。自然環境を保全し、多様性を維持していくためには、まず、現在の生態系を構成している動植物の実態調査が必要ではないでしょうか。		2	①
53	基本目標5の「市民参加による自然環境調査」、「調査を通じた専門家の育成」で市民参加による曽根干潟の底生生物調査の手法の講習会とその手法を活用したモニタリングの実施を計画に入れていただくとありがたい。		2	①
54	基本目標5の「特異な地形・地質、水環境の実態調査」でジオパーク活動は、大地のもたらす恵み、景観や生物多様性の保全だけでなく観光や町おこしなどへの利活用も目標としている。いのちのたび博物館や観光課など広く関係部局と連携しながら取り組みを進めてほしい。	ご意見ありがとうございます。「特異な地形・地質、水環境の実態調査」につきましては、今後の展開を継続的に検討してまいります。	2	①
55	生物多様性戦略は地方の特性を組み込んでこそ地域戦略として展開できると思う。そこでジオパーク構想と結びつけた展開をご検討いただきたい。		2	①
4 「第4部 戦略の推進に向けた数値目標」に関する意見				
No	意見	市の考え方	内容	反映結果
56	取り組みに対する数値目標を設定したことは非常によいと思う。自然に関する取り組みは数字で表すことが難しいものが多いとは思いますが、このようなことは大切である。	本戦略で設定した数値目標を用いて本戦略の基本目標の達成状況や基本施策の進捗状況の評価をするとともに、自然ネットの運営会議や、環境審議会等へ報告を行います。このように通じてPDCAサイクルを適切に回すことで、戦略を推進してまいります。	1	①
57	「戦略の推進に向けた数値目標」は具体的でわかりやすく、評価の面からも非常に大事な目標だと思う。しかし、この項目のみに注目するのではなく、裾野の項目を広げるための具体的な努力目標も必要ではないか。	まずは、第2次戦略に掲げた数値目標を用いて進捗状況の評価を行います。その上で並行して努力目標の必要性についても検討してまいります。	2	①